

学生と教員の見方

【学生の見方&考え方】
(4年 高屋敷華子)

大学の短期研修でハワイに1週間滞在した際、特に印象に残ったハワイのリゾート地としての発展と、独自の文化を守るための取り組みについて紹介したい。

ハワイには年間、約1000万人もの観光客が訪れるが、とりわけワイキキには宿泊施設、グルメ、ショッピングスポットなど観光に必要なすべてがそろっている。ただ、リゾート開発の一方で「ハワイらしさ」をいかに維持するかも課題だと聞いた。

ワイキキ見学ツアーの際、ガイドの先生から「ハ

ワイキキの都市計画

ワイラしさとは何か」と問われ、綺麗な海やココナッツなど思いつく特徴が必ずしも「ハワイ唯一」では無いことに気付かされた。

ワイキキの街並みにはハワイ特有の文化保存と観光開発のバランスを取るべくさまざまな工夫がなされている。有名なブランドが入った巨大なショッピングセンターは他の観光地にもあるが、中庭に配置された人工的な泉と池は、この地がかつて水の湧くワイキキ土地であったことを示しているという。

また、ハワイではかつて、無計画に開発が進められ、



【アピールポイント】
趣味は旅行です。観光地だけでなく地元の人のおすすめを聞いて街歩きすることが最近のマイブームです。

ビーチのすぐ近くに建物を建てても規制がなかったという。ワイキキの西にあるアウトリガリーフワイキキはそうした時代に建てられたホテルであり、建物のた。

無個性なホテル群になりつつあったというワイキキが今、魅力的なのは、都市計画と固有の文化の調和を指してきたからだと感じた。

文化を守るための取り組み

バランスの取れた観光開発

外壁が波打ち際に向かって建て替える際にヨッピングセンターは他の観光地にもあるが、中庭に配置された人工的な泉と池は、この地がかつて水の湧くワイキキ土地であったことを示しているという。

【教員による展開】
(上地聡子講師)

その後、少なくとも1930年代はまだ、カラカウア通りにホテルがそびえる街並みは見られなかった。最初の西洋建築ホテルとして1901年に創業したモアナ・ホテル(現モアナ・

世紀後半にアメリカ本土から観光客がハワイを訪れるようになったが、その結果、ホノルル地区で公衆衛生環境が悪化したため、土地改良を目的に始められたのがワイキキの運河掘削である。現在のワイキキを囲んでいる運河はその時に作られたものであり、そこからすくい取られた土砂が湿地帯を埋め立て、リゾート用地としてのワイキキを完成させていった。このプロジェクトは併記したタイトルも確かにワイラしさを感じさせる。しかし、かつてここで水田を作り、魚を養殖していた人々の子孫はワイキキにほとんどいない。その文化だけがハワイらしさとして観光客に提供されているのだとしたら、やはりそこには考えなければならぬ問題がある。